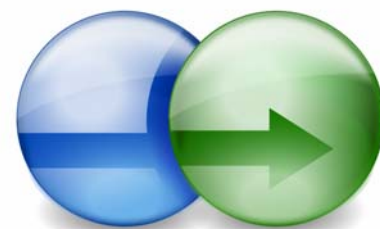


日東紡

2008年度 決算説明会



Relay¹⁰¹

2009年 5月 15日

目 次

I .2008年度決算の概要

II .2009年度の取組み方針と 業績予想

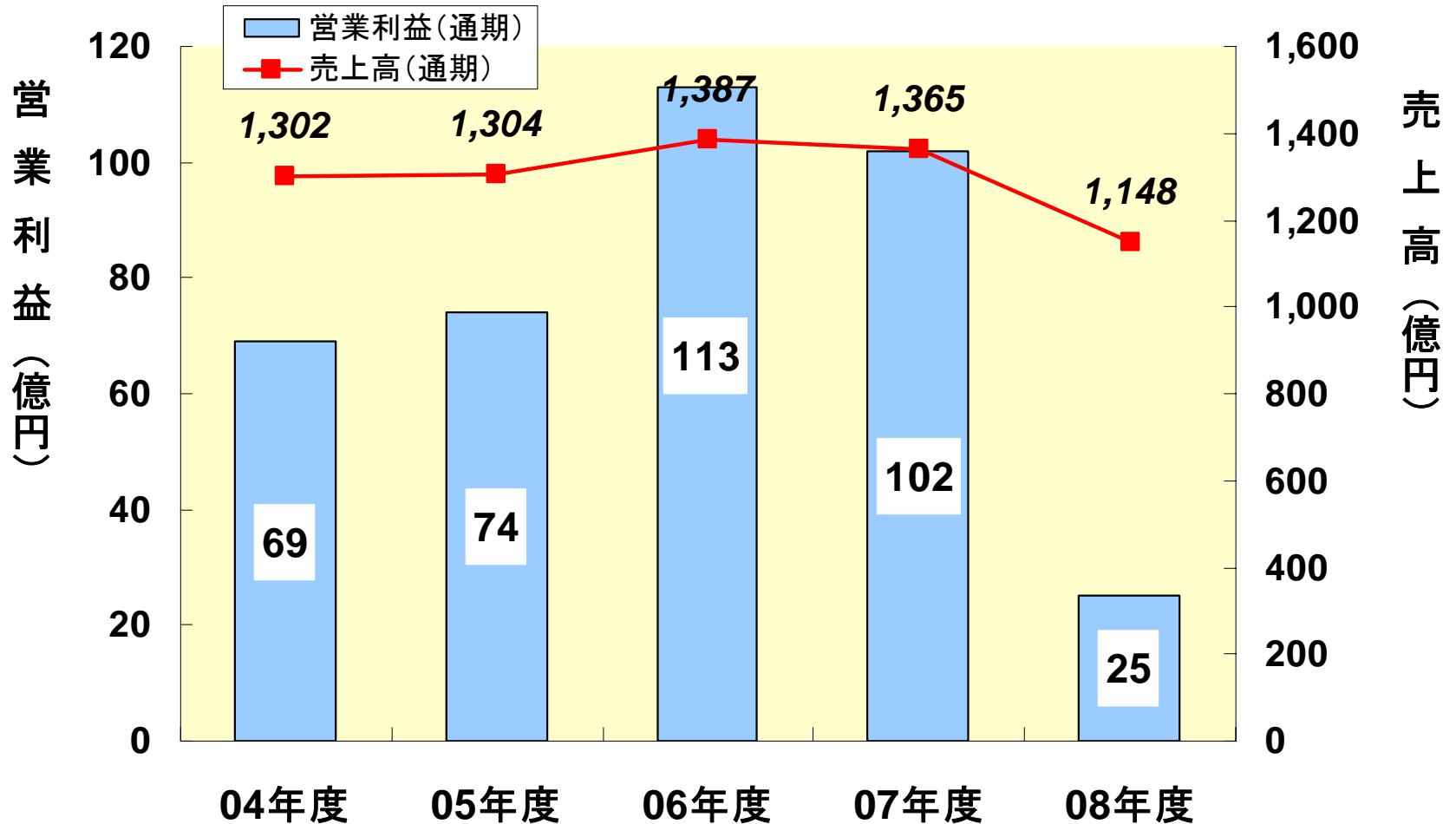
I. 08年度決算の概要

1. 業績概要

(億円)

	07年度	08年度	増減	増減率 (%)
売上高	1,365	1,148	▲ 217	▲ 15.9
営業利益	102	25	▲ 77	▲ 75.1
営業利益率 (%)	7.5	2.2	▲ 5.3	—
経常利益	102	24	▲ 77	▲ 76.1
当期純利益	59	▲ 91	▲ 150	—

2. 売上高・営業利益の推移



Relay¹⁰¹

3. 財務及びキャッシュフロー

(億円)

	07年度	08年度	増減
総資産	1,561	1,474	▲ 87
純資産	759	564	▲ 194
自己資本比率(%)	47.3	37.2	▲ 10.1
1株当たり純資産(円. 銭)	298.83	256.58	▲ 42.25

	07年度	08年度	増減
営業キャッシュフロー	132	19	▲ 113
投資キャッシュフロー	▲ 65	▲ 93	▲ 28
フリーキャッシュフロー	67	▲ 74	▲ 141
財務キャッシュフロー	▲ 84	82	166
現金及び現金同等物期末残高	188	192	4

5

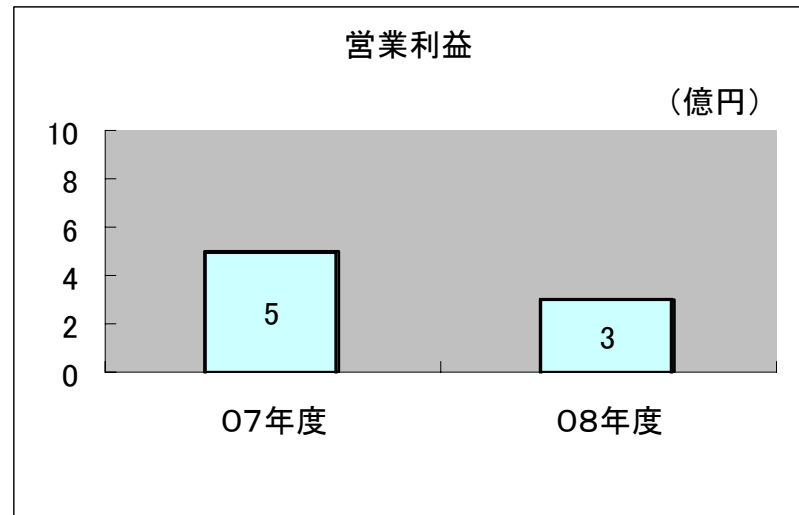
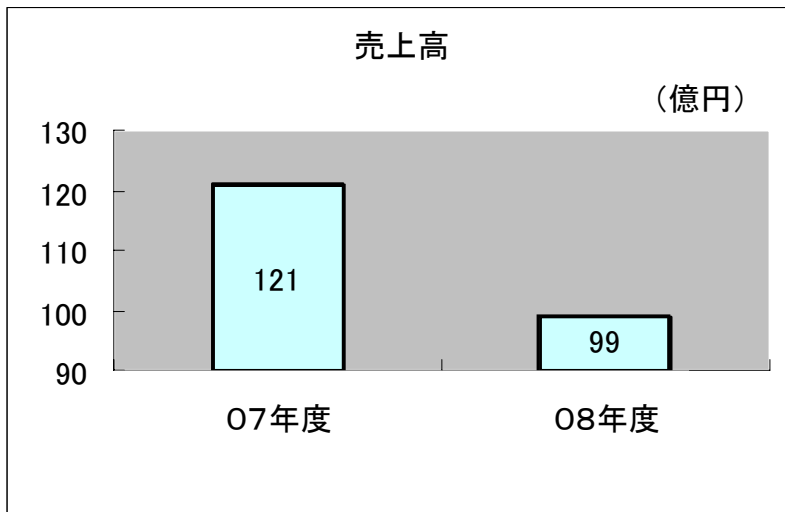
4. セグメント別業績

(億円)

	売上高				営業利益			
	07年度	08年度	増減	増減率 (%)	07年度	08年度	増減	増減率 (%)
繊維	121	99	▲ 21	▲ 18.2	5	3	▲ 1	▲ 33.2
建材	540	463	▲ 76	▲ 14.3	13	▲ 3	▲ 17	—
G/F	566	450	▲ 116	▲ 20.5	75	17	▲ 58	▲ 77.3
その他	137	135	▲ 1	▲ 1.4	16	16	0	▲ 0.0
消去	—	—	—	—	▲ 7	▲ 7	0	—
計	1,365	1,148	▲ 217	▲ 15.9	102	25	▲ 77	▲ 75.1

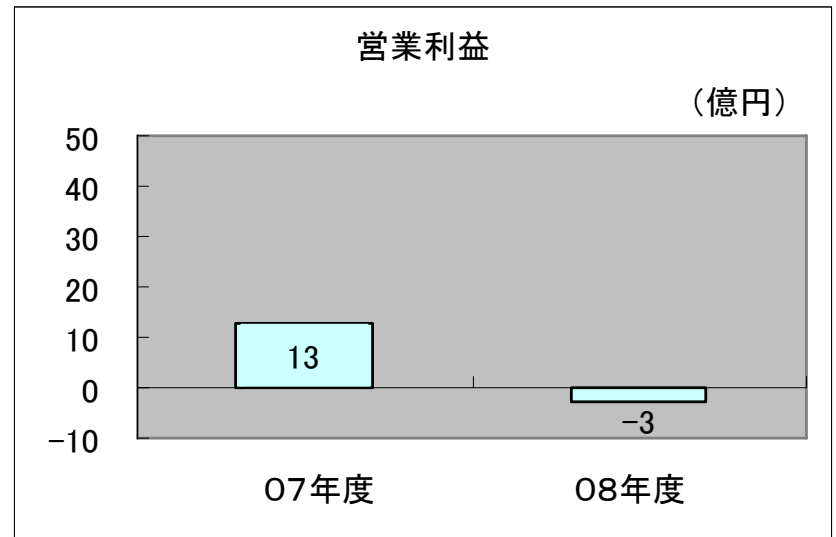
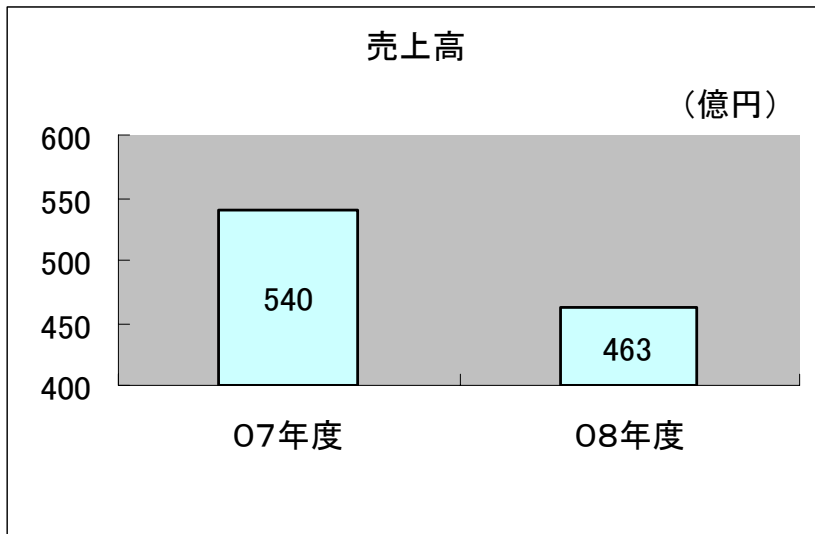
(1) 繊維事業

- ストレッチ素材 新商品の開発や徹底した生産、販売効率の向上に努めたものの、後半以降、販売が急速に落ち込む。
- 接着芯地 高付加価値品の上市による販売強化などに努めたものの、衣料品マーケットの大幅縮小の影響などを受ける。



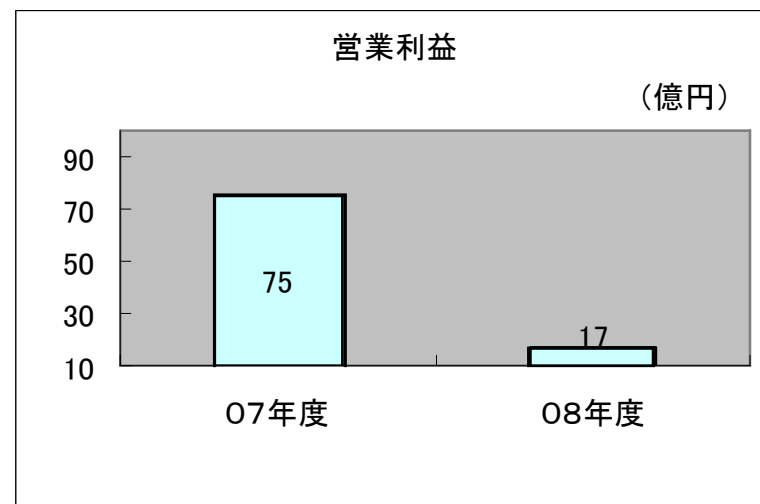
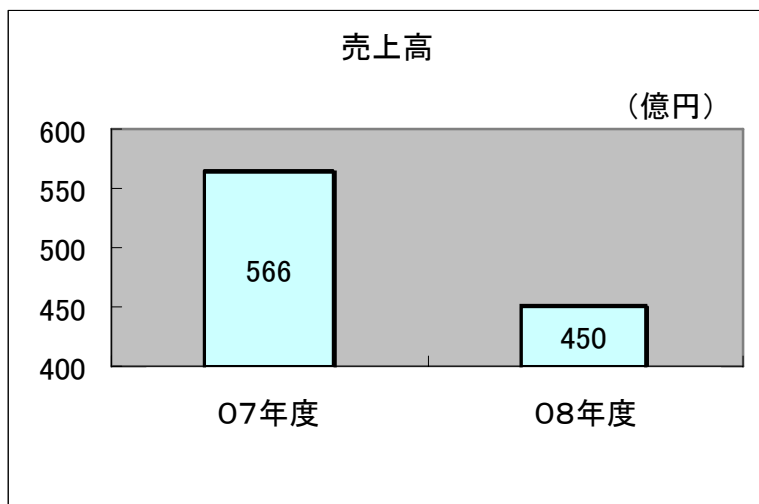
(2) 建材事業

- 断熱材 住宅購買意欲の低下により、住宅着工戸数が低調に推移し減収。
- 内装建材 天井材はオフィス需要が減退し、着工延期、工事の凍結などが相次ぎ減収。
- エンジニアリング 設備関係工事は受注増加。音響関係工事は物件が減少。



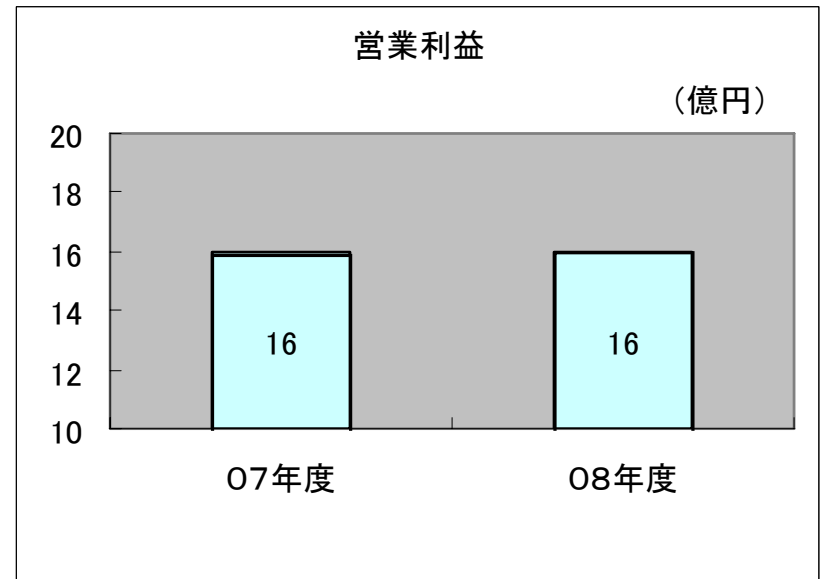
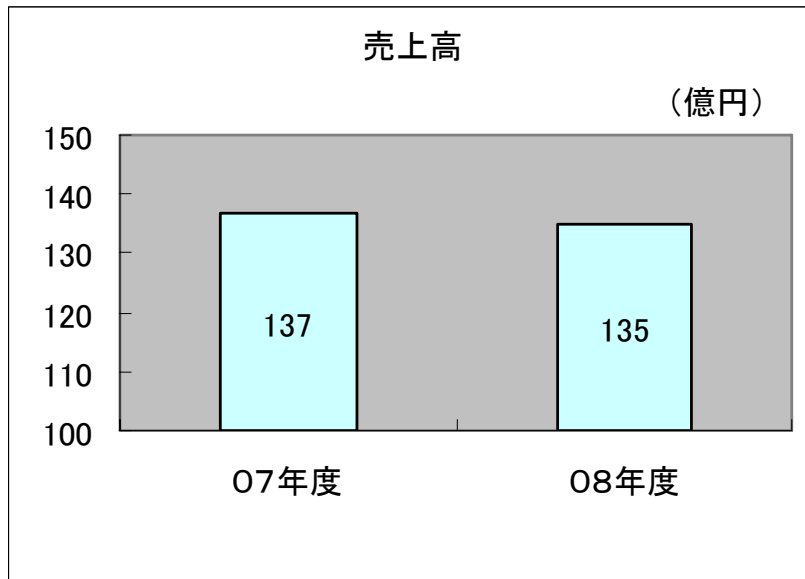
(3) グラスファイバー事業

- 電子材料用途 前半は高付加価値品へのシフトなどで比較的堅調に推移したが、後半は自動車、通信、インフラ分野で急激に需要が減退し減収。
- 強化プラスチック用途 住宅設備機器関連が低迷したのに加え、電気、電子分野などの大幅な在庫調整により減収。
- 産業資材用途 自動車用関連部材、建築内装分野などの販売が急減したため減収。



(4) その他の事業

- **メディカル事業** 新商品の開発や営業力の強化を推進。
- **飲料事業** 品質管理体制の強化や新規顧客の獲得などを推進。
- **スペシャリティケミカルス事業** 機能性商品の上市による製品力強化などを実施。



Ⅱ. 09年度取組み方針と業績予想



1. 平成22年3月期の取組み方針

- 平成20年12月25日、「事業環境の急変に即応する諸施策」を策定、実行に。
 - 収益性を軸に事業の抜本的見直し
 - 各事業分野で更なる付加価値向上に向けた事業領域の深掘りと拡大
- 今期を上記諸施策を徹底して実行し、事業基盤を一層強固なものとする1年間と位置づける。

【平成22年3月期の取組み方針】

- ①顧客との関係強化
- ②技術革新の加速
- ③人材の基盤強化
- ④内部管理体制の整備と運用
- ⑤原点に立ち返った業務推進

以上により、事業構造改革を成し遂げ、付加価値を増進させてまいります。

2. 09年度業績予想

為替：90円／US\$
 原油価格(ドバイ)：\$60／バレル (億円)

	07年度	08年度	09年度 予想	対前年 増減率 (%)
売上高	1,365	1,148	1,020	▲ 11.2
営業利益	102	25	14	▲ 45.4
営業利益率(%)	7.5	2.2	1.4	—
経常利益	102	24	6	▲ 75.4
当期純利益	59	▲ 91	4	—



3. セグメント別動向

【全体】

上期は在庫調整の段階が続くなどの要因から、厳しい業績が続くが、第2四半期以降、更なる高付加価値化等により回復を着実なものとする。

※当社は、セグメント別の業績見込み数値は開示しておりません。

【セグメント別】

繊維事業	消費低迷により需要動向は引続き厳しいが、CSY・芯地の高付加価値品へのシフトや徹底したコストダウン等を進め、前期並み利益確保を図る。
建材事業	極めて厳しい環境が継続する中、本体建材事業縮小を進めていくため、大幅に減収となるが、構造改善効果等により業績安定を図る。
グラスファイバー事業	電子分野を中心に回復基調を見込むが、上期は回復途上で厳しい業績となる。通年では、技術力を背景に高付加価値化を更に進めることによって、前期並み業績確保を図る。
その他事業	安定収益基盤として前期並み業績を確保の上、事業領域の拡大を図る。

本資料の取り扱いに対する注意事項

本資料に記載されている予想数値は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、将来の業績数値や施策の実現を確約・保証するものではありません。